

生徒による主体的な議論に関する 実践報告書及びマニュアル

令和5年4月

千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課

はじめに

本報告書は、千葉県教育庁教育振興部児童生徒安全課の事業の一環として実施した「生徒による主体的な議論の機会の創造」に関する実施報告書及びマニュアルである。令和4年12月に改訂された生徒指導提要は、「主権者意識の向上につながる児童会・生徒会活動と生徒指導」を実施する上で「児童生徒の権利を保障する視点」の必要性について言及している。このような観点から、令和4年4月28日付事務連絡「生徒による議論の状況等に係る調査について（依頼）」により、令和4年4月28日から5月6日にかけて、県立高等学校を対象に、教育活動の様々な場面において、生徒による議論がどのようなかたちで実践されているか、アンケート調査を実施した。その結果を参考に、県教育委員会では6校を指定して、その実施状況の取材及び一部実施事項の依頼を行った。これに基づき、本報告書は以下の構成をとる。

I 概要編

県教育委員会が取材・実施事項依頼を行った6校の取組について、概要を紹介する。なお、取組の内容について、県教育委員会では次のように整理した。

制服に関する議論：県立柏南高等学校

県立長生高等学校（全日制）

生徒指導や行事運営の規程等に関する議論：県立小金高等学校

県立流山おおたかの森高等学校

学校の在り方に関する議論：県立国分高等学校

県立安房高等学校

II 特集編

上記6校のうち、特に「学校の在り方」については、県教育委員会の仲介の下、株式会社ZOZOが第三者として議論の進行役や指導助言役として加わった。その実践事例について記述した。

III マニュアル編

上記6校の取材や実践報告及び当課が実施した研修等の事例から、議論のノウハウを抽出して、マニュアルとして書き出した。

I 概要編

生徒と職員が協議し、女子用スラックスの導入を実現した事例

1 学校名

県立柏南高等学校

2 実施内容の概要

(1) 概要

県立柏南高校の女子用制服は、夏冬ともにセーラー服であった。

女子用スラックスを導入するにあたり、生徒会役員生徒、生徒会顧問、生徒指導部職員、家庭科教諭、生徒指導部長（委員長）、管理職から構成される制服検討委員会を立ち上げた。会議を数回行い、女子用スラックス導入の是非、趣旨、選定等について検討を行った。

(2) 導入の目的

スラックス導入の議論に際して、全校生徒及び教員を対象に、オンラインによるアンケートを実施した。アンケートでは、防寒、自転車乗車時の安全面といった観点、肌の露出を抑えることによる性被害の未然防止という防犯的な観点、性的少数者に対する配慮を示すという観点等からスラックス導入をする声が挙げられた。これらの意見を踏まえて、制服検討委員会では、生徒と職員が協議し、スラックス導入の目的を「防犯と防寒」とすることで合意した。性的少数者への配慮という観点をあえて全面に出さないことで、「スラックス着用＝性的少数者」というイメージとならないよう配慮した。

(3) 成果

全校生徒を対象とした趣旨説明、業者を交えたサンプルの検討、サンプルの展示、全校生徒及び教員を対象とした選定アンケートを経て令和4年度11月下旬より女子用スラックスが着用可能となった。制服検討委員会を中心に、意思決定に多くの生徒や職員が関わったことで、女子用スラックス導入や、関連する生徒指導規程の変更等に共通理解をもって取り組むことができた。



▲制服のサンプルを展示して、生徒アンケートを実施

制服を通じた学校の在り方に関する考察を教科指導の中で実施した例

1 学校名

県立長生高等学校（全日制）

2 実施内容

(1) 概要

県立長生高等学校では、学校の教育活動やその他学校運営の状況に関する5か年計画「長生高校改革プラン」を策定し、その定期的な点検・評価を行っている。

令和4年度は、「制服の見直し」を実施プランの1つに掲げ、女子用スラックス導入に着手した。その過程で、生徒会役員による全校生徒を対象としたスラックス導入に関する意見聴取や、女子用スラックスを制服として折り込んだ校則変更等を行った。

更に、この取り組みの一環として、学校における制服の意義・位置づけや、その時代背景について生徒が考察する授業を実施した。

(2) 授業の問い「“私たち”が着ている“制服”って何だろう」に対する生徒の回答（抜粋）

- 制服とは、その学校に所属しているという自覚を持たせるものだと思います。時代によって制服は変わっていくが、その学校の伝統や文化を受け継いでいくために大切なものだと思います。

▲授業で使用したプリントの例

- 制服は、当時の学生や教育の姿を反映していて、時代によってどんどん変わっていくものだと考えました。これからもさらに変化して、より過ごしやすい制服ができたらいと思いました。制服の問題は、学校の中だけでなく、歴史的な問題にもつながっていくことに気づきました。

生徒総会において、生徒指導規程についての合理的説明を求めた事例

1 学校名

県立流山おおたかの森高等学校

2 実施内容

(1) 概要

流山おおたかの森高校では、主体的に思考し、行動する人材を育成する教育活動として、日頃の教科指導に、様々な言語活動を取り入れる等、生徒の思考や行動が学校生活のあらゆる場面で生かされるような指導を行っている。令和4年度は生徒指導規程のいくつかの項目について、規程の合理的な根拠に関する説明と、必要に応じた改訂を、生徒会が学校に対して求めた。

(2) 議題の例 自習室でのスマートフォンの使用について

現在のルールで使用が許可されているのは「朝の8時半までと昼休み」に「自分の教室で」となっている。

一方、最近、教室でスマートフォンを使用しながら勉強している人が増えている。これについて、使用目的と、上記規程との間に齟齬を感じる生徒の声が、アンケート調査によって多数よせられた。そこで生徒会は、自習目的によるスマートフォン使用許可を学校に対して要望した。生徒と教務部、生徒指導部が中心となって協議し、自習室でのスマートフォンの使用についてルールを定め、使用可能とした。

(3) 新たな取組—生徒による SNS 情報発信

生徒主体による学校運営の新たな在り方を検討する中で、令和4年度から学校公式インスタグラムを開設し、情報発信に取り組んでいる。



◀ ホームページトップ画面に公式インスタグラムへの二次元コードを掲載

生徒による行事運営委員会の実施事例

1 学校名

県立小金高等学校

2 実施内容の概要

行事運営

県立小金高等学校は、生徒の自主性、自立性を重んじる伝統ある学校である。過去には、生徒による主体的な議論を行い、1993年に制服廃止、2011年に制服再導入と、制服や生徒指導規程等を巡る生徒を中心とした議論を実施してきた。その度に、生徒、保護者、地域が、目指すべき学校像に対して対話を通じて意見交換をし、社会の在り方に合わせて学校の在り方を積極的かつ柔軟に変化させてきた。近年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学校行事の準備や運営等に制限がつく中で、どうすれば、より小金高校らしい行事が実現できるかについて、生徒が中心となって組織された各行事の運営委員会によって審議する等、その積極的かつ柔軟な姿勢は、コロナ禍でも生かされた。



◀ 年中行事のひとつ 球技祭

生徒が運営本部を組織し、ウィズコロナ体制での開催方法や競技の在り方について、生徒自ら発案し、実行した。

ZZ

年中行事のひとつ ▶ 合唱祭

生徒が運営本部を組織し、練習方法や練習場所の割りあて、衣装、曲の長さ等、ウィズコロナ体制での運営方法を生徒自ら発案、実行した。



学校の在り方について「企業ブランディング」の視点から指導助言を仰ぎ、議論した事例① ※詳細は「Ⅱ 特集編」にて記載

1 学校名

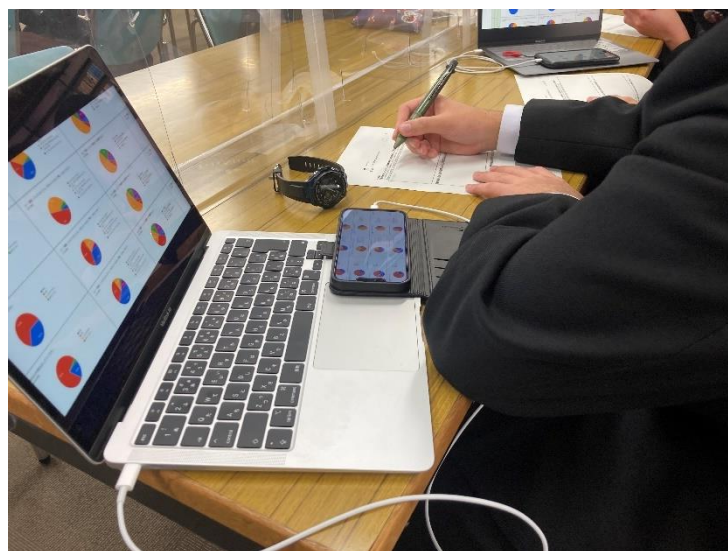
県立国分高等学校

2 実施内容

国分高校は「自主自律」を校訓とした自由な校風の学校である。多くの生徒は、勉強だけでなく、部活動などの課外活動にも熱心に取り組んでいる。

令和4年度は、生徒会役員生徒の発案で、全校生徒を対象に、学校生活に関するアンケートを実施した。アンケートでは、特に制服の在り方について、男女で制服の選択肢に差があること、性的マイノリティへの理解と学校の姿勢の在り方について意見が寄せられた。そこで、生徒会として、制服の在り方について、ジェンダーレス化の是非を含めた議論に取り組むこととした。

議論の公共性を確保するために、生徒や職員といった学校関係者だけでなく、企業からの指導助言を仰いだ。千葉県教育委員会の仲介で、株式会社ZOZOの企業ブランディングを担当する部署の職員に、議論の進行等を依頼して実施した。



▲アンケート結果を分析し、議論の主題について検討する生徒

学校の在り方について「企業ブランディング」の視点から指導助言を仰ぎ、議論した事例② ※詳細は「Ⅱ 特集編」にて記載

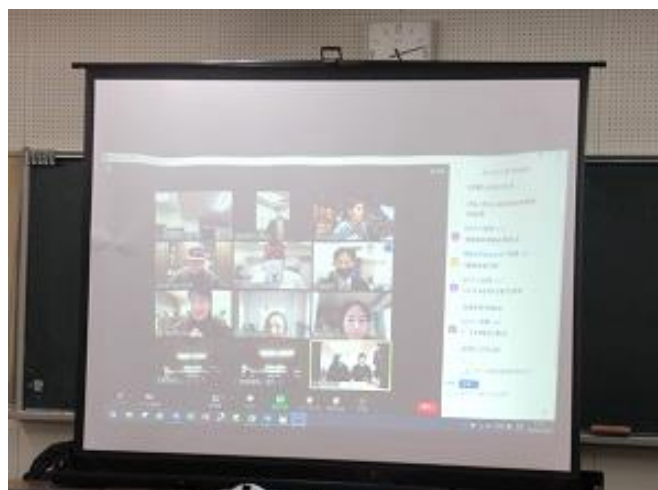
1 学校名

県立安房高等学校

2 実施内容

株式会社 ZOZO との連携—企業ブランディングという視点

安房高等学校の生徒会活動は、生徒会本部が中心となり行事の運営や生徒会広報の発行、ボランティア活動など様々な活動に取り組んでいる。令和3年度は、スクールポリシーの策定過程において全校生徒の意見をまとめ、自分たちの学校について考える取り組みを行った。また、昨今のルールメイキングプロジェクトの取り組みに参加する生徒や問題意識を持っている意欲的な生徒の中には、生徒が学校の在るべき姿について考え、意見を共有するという機会を求める機運があった。これらを背景として県教育委員会や株式会社ZOZOと連携し、「学校の在り方について、企業ブランディングの視点から指導助言を受け、生徒が議論をする」という、取り組みを実施するに至った。



▲オンライン会議にて、株式会社 ZOZO、県教育委員会と打ち合わせ

Ⅱ 特集編

学校の在り方について「企業ブランディング」の視点
から指導助言を仰ぎ、議論した事例について

学校の在り方について「企業ブランディング」の視点から指導助言を仰ぎ、議論した事例① 国分高校

実施上のポイント

- 全校生徒を対象とした記述式アンケートを分析し、学校生活における生徒の関心事について幅広く把握
- 幅広く集約した意見から学校生活の在り方に対する本質的な「問い」を抽出
- 議論の公共性を確保

1 実施内容

(1) 生徒観と課題

国分高校は「自主自律」を校訓とした自由な校風の学校である。多くの生徒は、勉強だけでなく、部活動などの課外活動にも熱心に取り組んでいる。一方、学校生活において、自ら主体的に新しいことを企画したり、提案したりすることにはやや消極的でもある。また、学校として、生徒の意見を積極的に聞き、様々な指導場面に生徒の意見を生かすような、生徒の主体性を育む教育活動を、どのように実施するかという点が、教育活動上の課題の1つである。

(2) 課題への取組① 全校生徒へアンケートを実施

そのような課題への取組の一環として、生徒会本部役員生徒の発案で、全校生徒を対象に、学校生活に関するアンケートを実施した。アンケートでは、現在の国分高校の在り方や学校生活に関する生徒の実感を幅広く聴取した。その中で、生徒会本部役員生徒が目にしたのは、制服に関する意見であった。女子の制服はブレザータイプで、スカートまたはスラックス、ネクタイまたはリボンと、選択肢が多い一方で、男子の制服は学ランタイプ一択であり、選択肢が少ないという意見については、多くの生徒から寄せられた意見であり、生徒全体で取り組むべき課題であると認識した。

(3) 課題への取組② 本質的な「問い」の抽出

この意見をもとに、「そもそも、制服とは何のためにあるのか」「国分高校の生徒にとって、制服とはどういう存在か」「社会全体の中で是とされている価値観と、国分高校の制服の在り方との間にギャップはないか」等、「制服」をキーワードとした学校や社会の在り方に関する議論を、生徒会役員の中で積みかさねた。そのような議論の中で、生徒は「そもそも、制服が男女それぞれ分かれているのは何

故か」という問いを見出した。

(4) 議論の公共性の確保—県教育委員会、株式会社 ZOZO との連携

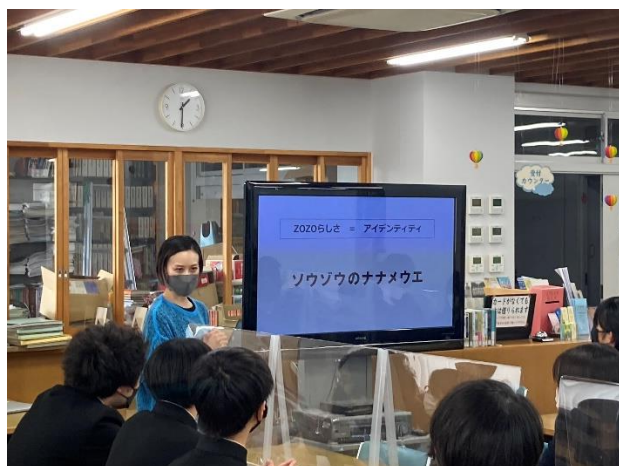
学校外の第三者の視点を組み込むことで、議論を広く社会的な動きの中に位置づけることと、議論の公共的な意義を付加することを心掛けた。

(ア) 意見表明権—県教育委員会との連携

令和4年12月に改訂された生徒指導提要は、「主権者意識の向上につながる児童会・生徒会活動と生徒指導」を実施する上で「児童生徒の権利を保障する視点」の必要性について言及している。このような観点から、県教育委員会児童生徒安全課の指導助言を受けつつ、議論の実施計画を策定した。

(イ) 株式会社 ZOZO との連携

「制服」を題材に、幅広く学校や会社といった「集団」の在り方について、「多様性」という観点から様々な活動に取り組んでいる株式会社 ZOZO の企業ブランディング部門職員を招聘した議論が、県教育委員会の仲介によって実現した。



▲株式会社 ZOZO による講義（左）

生徒の各グループに、株式会社 ZOZO のスタッフが議論の進行役として配置

2 株式会社 ZOZO による議論ファシリテート

上記のような経緯の中で、11月上旬に、株式会社 ZOZO のファシリテートによる議論を実施した。以下、その概要についてまとめる。

- (1) 実施時間 2時間（ロングホームルーム、総合的な探究）
(2) 参加生徒 有志生徒 30名（生徒会役員生徒を含む）
(3) 事前指導 生徒会役員生徒、株式会社ZOZO、県教育委員会指導主事との事前打ち合わせ（オンライン開催 合計3回）

(内容)

- 国分高校生徒会役員の課題意識の共有
- 株式会社ZOZOより、議論のポイントとなる観点の整理
- 県教育委員会より、「意見表明権」について

(4) 当日の実施内容

(ア) 進行役 株式会社ZOZO

(イ) 記録役 国分高校 教員

(ウ) 方法 生徒を4～6名程度のグループに分ける。

進行役が各班に付き、議論を進行する。

各班の議論成果について、ホワイトボードにまとめる。

株式会社ZOZOより、「企業という“組織”において、アイデンティティを共有したり、変化させたり、表現したりすること」について講義する。

(エ) 主 題 「国分高校のアイデンティティとは何か」

(オ) 参加生徒の発言（一部抜粋）

- 中学生にとって魅力のある、志願したくなるような学校にしたい。そのために勉強と部活動の両立ができるような授業体制や部活動の練習体制が必要だと考える。
- 国分高校の生徒は、勉強、部活、行事に積極的に取り組む姿勢はあるが、自分の意見を言ったり、リーダーシップを発揮したりする人は少ない。だが、いろいろなことを考えたり、周りを動かしたりする力を持っている人はいると思うので、そういう人が動きやすいような雰囲気のある学校になったらよい。
- 学校行事について、現在では、どのような行事を行うか（「体育祭」「文化祭」「合唱祭」など）は予め決まっている。また、その運営方法も先生方が決めている。そういった決まった中で生徒が動いているのが現状だが、国分高校の「自主自立」という校訓からすると、それだけでは足りない。どのような行事を行うのか、またその運営方法について、もっと生徒が自主的に動くべき。

- 校則を、社会に準ずるものにしたい。校則を生徒が中心となってつくることで、生徒自身が「守りたい」という気持ちになる。
- 女子は制服でリボンかネクタイ、スカートかパンツといった選択肢があるが、男子は一択状態である。男子にもブレザーやスカートといった選択肢があってもよいのでは。

3 年間指導上の位置づけ

時期	実施事項	実施上の工夫
5月中旬	アンケート実施 ○対象：全校生徒 ○実施内容： 生徒総会の議題に向けた意見収集	オンラインフォームを使用して実施した。 自由記述のアンケートとすることで、生徒の意見を幅広く収集した。
6月中旬	生徒総会 ○実施内容： 「制服や校則のジェンダーレス化に関する提言を学校に行うこと」を議決	アンケート結果をもとに、生徒会本部役員が協議し、議題を精査した。
11月上旬	株式会社 ZOZO を招聘した議論 ○対象：生徒会本部役員生徒、有志生徒 合計30名 ○実施内容： ・「学校の在り方(アイデンティティ)」について	株式会社 ZOZO の企業ブランディング部門担当者による議論の進行(ファシリテート)、及び指導助言を受けた。
1~2月	生徒会による全校生徒へのアンケートを作成。職員会議で承認。	アンケートについては末尾に掲載した。
3月	全校生徒へのアンケート実施。	

4 成果と課題

(1) 成果

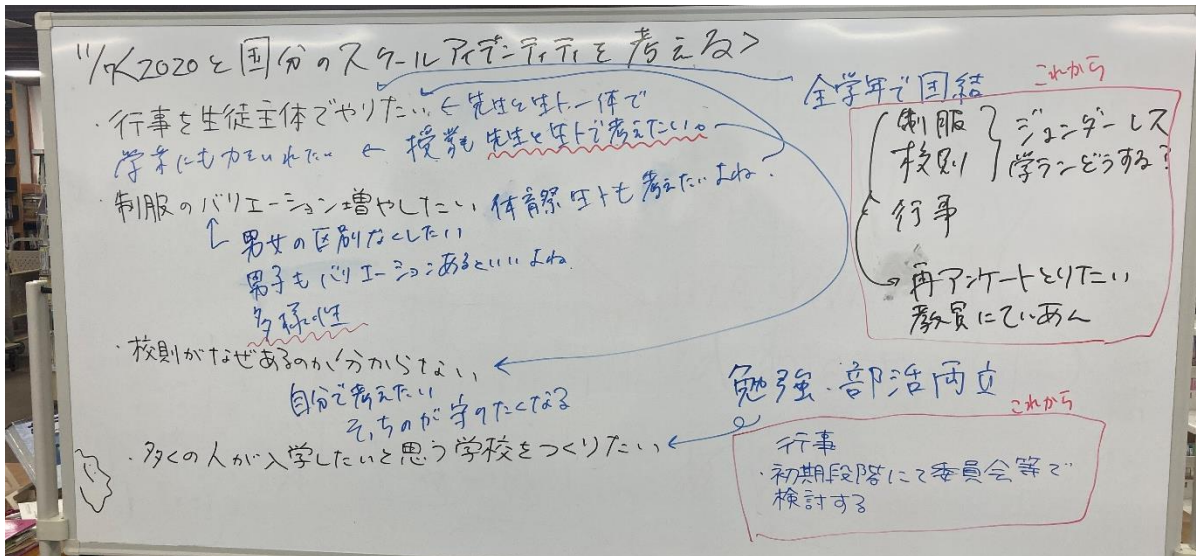
生徒にとって、生徒総会にて学校の提案事項を議決するということは、初めての試みとなった。このことは、生徒が自ら学校の在り方について考え、自らの意見表明権を行使してそれを学校に伝えることが出来たという点で、1つの成果と

なった。

改訂された生徒指導提要においては、校則を時代に合わせたものに変革することや、生徒の意見を反映させることが学校現場に求められている。また、自分たちの身近にあるルールについて考え、意見を表明することは、18歳で成人し選挙権を獲得する生徒にとって、大きな教育的意義があったと考えられる。

(2) 課題

「ルール」と「人権」との関係、及びジェンダーや性的マイノリティといった課題について、生徒や職員が、共通の課題意識をもって議論に望むようにするためには、一層の研修や意見交換等が必要であると考えられる。生徒、職員双方の人権意識の涵養が、本実践を進める上で通奏する課題といえる。



▲ホワイトボードによる記録

制服・校則のジェンダーレス化に関するアンケートについて

生徒会係

過日の職員会議で可決された通り、生徒会では制服・校則のジェンダーレス化に関する学校への提言を作成していきます。作成にあたって、生徒会から全校生徒にアンケート調査を行います。

(1) アンケートの内容 (Google Form で生徒会役員が作成したものを文字に起こしています)

<ジェンダーレス化に関するアンケート>

	問い	回答形式 選択肢
1	性別	男 女 無回答
2	制服は気に入っていますか？	気に入っている 気に入っているが不満もある 気に入っていない
3	※2で「気に入っているが不満もある」、「気に入っていない」を選択した場合 不満な点 できるだけ具体的に書いてください。	自由記述
4	※2で「気に入っているが不満もある」、「気に入っていない」を選択した場合 解決策 できるだけ具体的な回答をするようお願いします。	自由記述
5	ジェンダーレス化という観点から、現行の制服や校則、校則に問題点があると思いますか？	あると思う ないと思う
6	※5で「あると思う」と回答した場合 どのような点が問題だと思えますか？またどのように改善すれば良いと思えますか？	自由記述
7	ジェンダーレス化に伴う校則の再検討について意見や要望があれば記入してください。	自由記述

<今後の生徒会活動の参考にするためのアンケート>

	問い	回答形式 選択肢
8	学校をよりよくするために、変えたほうが良いと思うことはありますか？	ある ない
9	※8で「ある」を選択した場合 具体的な内容	自由記述
10	※8で「ある」を選択した場合 改善点	自由記述

(2) アンケート実施方法

- ①生徒会がアンケートのQRコードを作成。各クラスに配付。
- ②各クラスのSHRで実施。(日程は未定。アンケートの内容が可決された後に各学年と相談させていただきます)

学校の在り方について「企業ブランディング」の視点から指導助言を仰ぎ、議論した事例② 安房高等学校

1 実施内容

(1) 概要

実施上のポイント

- 「リーダー研修会」を核とした、生徒会活動における当事者意識の醸成
- 「企業ブランディング」の3つの要素から指導助言
 - ・マインド：考え方
 - ・アクション：行動
 - ・ビジュアル：表現

(ア) 生徒観と課題

安房高等学校の生徒会活動は、生徒会本部が中心となり行事の運営や生徒会広報の発行、ボランティア活動など様々な活動に取り組んでいる。令和3年度は、スクールポリシーの策定過程において全校生徒の意見をまとめ、自分たちの学校について考える取り組みを行った。また、昨今のルールメイキングプロジェクトの取り組みに参加する生徒や問題意識を持っている意欲的な生徒の中には、生徒が学校の在るべき姿について考え、意見を共有するという機会を求める機運があった。これらを背景として県教育委員会や株式会社ZOZOと連携し、「学校の在り方について、企業ブランディングの視点から指導助言を受け、生徒が議論をする」という、取り組みを実施するに至った。

(イ) 株式会社ZOZOとの連携—企業ブランディングという視点

株式会社ZOZOからは、「企業ブランディング」の視点から指導助言を受けた。「企業ブランディング」には、マインド（考え方）、アクション（行動）、ビジュアル（表現）の3つの段階がある。これを、どのような学校を目指しているのか（マインド）、そのためにどのような行動を起こすのか（アクション）、学校の在り方を地域にどのように発信するか（ビジュアル）という観点に落とし込み、生徒が議論する、という構成を計画した。議論実施の当日に株式会社ZOZOの担当者が複数名で来校し、生徒の協議班それぞれにファシリテーターとして入り、生徒主体による議論に対して、株式会社ZOZOの担当者が、企業ブランディングの視点から質問や整理で介入する、というかたちで計画を進めた。また、企業と学校との連絡・調整に一部、県教育委員会が仲介に入ることによって、学校と企業との共通理解醸成に繋がった。

(ウ) 指導観

今回の取り組みは、生徒会本部役員のみならず、各クラスの代表者、有志の参加者を募り、リーダー研修会として複数回実施し、各会60名程度で実施した。各会で話し合われた内容は、校内放送や生徒会広報などで共有し、研修会に参加していない生徒に対しても当事者意識を持たせるよう情報発信した。

教員は、生徒会活動が生徒主体で行うために必要な視点を示唆する役に徹し、安全面に配慮しつつ、なるべく生徒に活動の内容や運営を信頼して任せるようにした。時間がかかったり失敗したりすることもあるが、効率よりも生徒の経験を重視し、意味のあるひと手間を惜しまないように、生徒会の指導について年度当初に職員に説明し、共通理解をはかった。



▲株式会社 ZOZO による講義

2 株式会社 ZOZO による議論ファシリテート

上記のような経緯の中で、11月上旬に、株式会社 ZOZO のファシリテートによる議論を実施した。以下、その概要についてまとめる。

- (1) 実施時間 合計4時間（課外活動 リーダー研修会として実施）
- (2) 参加生徒 有志生徒 60名（各会 生徒会役員生徒を含む）

(3) 事前指導 生徒会役員生徒、株式会社ZOZO、県教育委員会指導主事との事前打ち合わせ（オンライン開催 合計2回）

(内容)

- 安房高校生徒会役員の課題意識の共有
- 株式会社ZOZOより、議論のポイントとなる観点の整理
- 県教育委員会より、「意見表明権」について

(4) 当日の実施内容

(ア) 進行役 株式会社ZOZO 安房高校生徒会役員

(イ) 記録役 安房高校 生徒会役員

(ウ) 方法 生徒を4～6名程度のグループに分ける。

進行役が各班に付き、議論を進行する。

株式会社ZOZOより、「企業という“組織”において、アイデンティティを共有したり、変化させたり、表現したりすること」について講義する。

(エ) 主 題 第1、2回「安房高校のアイデンティティとは何か」

第3回「アイデンティティを表現する方法とは」

第4回「学校に何を提言すべきか」

(オ) 参加生徒の発言（一部抜粋）


- 安房高校はすでに自由な校風であり、それは先輩方が培ってきた様々な実績によって維持されてきたものである。学校によってはもっと厳しい指導をしているところもある。
- 目先の校則や制服のデザインではなく、そもそもどのような学校を目指すのか、というビジョンについて語るべき。学校のあるべき姿に対する考え方が共有できていない状態で校則や制服について変更する理由は薄い。
- 地域の方々や中学生からは、勉強、部活動、普段の生活態度など、安房高生は「きっちり」としていると思われているし、そういった姿を期待されていると思う。でも一方で、実際に入学してみると、緩くやっている人も目立つ。自分としては、特に中学生に「思っていたのと違う」と思われるようになってしまいたくない。
- 「青春を実現できる学校」であってほしいと考える。髪型やセーター等に関する規則についての議論に目が行きがちだが、そういった議論をしている人を後押しする、というのも自分にとっては「青春を実現する」ことのひとつかもしれない。しかし、議論の結果、髪型やセーター等に関する

規則が変わったとしても、自分自身の生活そのものは変わらないと思う。

- 評価をするのは地域の方々や将来の安房高生となり得る中学生なので、自分たちだけで良いと思っていることだけやっても、だめなのではないか。そういう意味で、自分たちがやっていることを地域にアピールしていくことは大切だと思う。
- 授業公開から一步踏み込んで、授業中の安房高校の在り方だけでなく、例えば休み時間や放課後の自分たちの在り方を見てもらう、ということをやすることで、地域の方々が求めている「安房高像」と現実の安房高の姿のギャップが埋められれば、自分たちも、もう少し自分たち自身が目指す学校像を推し進められるのではないか。
- 自分たちのやりかたいにチャレンジ出来て、かつメリハリのある学校を目指したい。そのための1つの方法として、校則について、時間をとって学校全体で協議し、自分たちで守りたいと思える校則にしていきたい。その結果として、これまで安房高校にとって伝統と思われていたものに変化が生じることになるとしても、自分たちで協議したものであれば、地域の方々にも納得していただけると思う。

3 年間指導上の位置づけ

時期	実施事項	実施上の工夫
9月～10月 下旬	株式会社ZOZOとの打ち合わせ ○出席者：生徒会役員及び顧問、株式会社ZOZO担当者、県教育委員会 ○実施内容 ・生徒向け事前意識調査アンケートの内容検討 ・スケジュールの検討 ・議論の目的・方法等検討	打合せはオンラインにて実施した。 学校として、どのようなことについて議論を展開したいかについての共通理解を図り、株式会社ZOZOにどのような観点で指導助言を仰ぐか協議した。
11月中旬	リーダー研修会 ○出席者：生徒会本部役員、各クラス代表、有志生徒 ○実施内容 ・生徒主体による議論（マインド的	生徒会広報を通じて全校生徒に内容を周知し、当日参加しない生徒にも当事者意識を持てるよう図った。

	な観点)	
12月中旬	<p>リーダー研修会</p> <p>○出席者：生徒会本部役員、各クラス代表、有志生徒</p> <p>○実施内容</p> <p>・生徒主体による議論（マインド的な観点）（アクション的な観点）</p>	 <p>▲各協議班に株式会社ZOZOの担当者がつき、議論をファシリテートした。</p>
2月上旬	<p>リーダー研修会</p> <p>○出席者：生徒会本部役員、各クラス代表、有志生徒</p> <p>○実施内容</p> <p>・生徒主体による議論（マインド的な観点）（アクション的な観点）</p>	<p>今年度末から来年度のリーダー研修会及び生徒総会において、学校にどのような提言を行うかについて議論した。</p>



◀各班より、議論した内容について全体での報告を行った。

4 議論に参加した生徒からの声（抜粋）

- 生徒の多くが疑問を抱いていた校則について生徒自身が考え見つめ直す良い機会となったと思います。アンケートを行うだけでは分からなかった本心や普段関わりを持つことは無いけど同じ学校で生活している生徒が話し合うからこそ出てくる意見など、生徒会役員だけでは思いつかない考えが想像以上に出てきたことにとっても驚いています。この先、校則が見直された時に、意識を持ち、自ら向き合い行動してくれる人が1人でも増えてくれたらこのような取り組みの意味があり、成功したと言えるのかなと思いました。
- 今の安房高生の高校生活への満足度はさまざまで、意見を聞き、考えることや、他者の意見と向き合うこと、いろんな人がいて思いやることの大切さを改めて感じました。加えて、私は自分の意見を持つというのが苦手で中立な立場にいることが多く、話し合いの場の流れを作るスキルが私には足りないのだと感じました。安房高校そして自分と向き合うことのできた時間はとても良いものでした。
- この機会で、自分たちの意見や改善して欲しいこと、こうして欲しいなどの意見を学校に対して伝える方法を学んだと思います。個人としては生徒会として活動することの根元の部分として、校則や学校のルールなどといったものがあつたので具体的に多くの人と話し合い、大人の方の協力を得て活動できたことがすごくよい経験になりました。これから先、社会に出た時にも、まずは自分で考え周りの人と相談しながらより良い行動が出来たら良いと思いました。
- 自分たちの自主性を高めていく大切さに気づけた良いきっかけだったと考えています。実際に参加することで自分が思っていた疑問などを他者と共有することができて、どういったように変えていけばいいかなど具体的に自分から考えることができるようになっていったことが特に良い点だと思います。
- 学校らしさ、校則の見直しなどを通し自分が学校に対し求めるもの、自分の意見や理想像を考える機会が研修会によって作れたと感じます。考えるだけに留まらず実際に行動を起こす大切さにも気付ける良い機会になったと思いました。
- 自分達で考え、行動して学校を変える。実際にやってみることでその難しさに改めて気付かされました。ですが学年、男女関係なく集まれば、安房高校が進化する為の数々の課題やそれを達成するための案をたくさん出すことができました。生徒全体で共通した学校をより良いものへとするという目標を

持ち、過ごしやすい、みんなが大好きな安房高校にしていきたいです。

5 成果と課題

生徒間でも上級生から下級生へ行事の運営方法や改善点などの引き継ぎを意識しながら活動に取り組ませることで、生徒会の顧問が代わっても生徒内で取り組みの経験や失敗が蓄積され、より良い活動を目指して取り組むことができてきた。

今回の取り組みでは、生徒会が議論を深めていくことや話し合いを通して合意を形成していくことに生徒自身が難しさを感じていたが、ファシリテーターとして株式会社 ZOZO より指導助言を仰ぎながら、各グループでの話し合いを深め、新たな視点や気づきを得ることができた。また、取組としては、株式会社 ZOZO と連携した一連の企画終了後も継続中であり、2月以降から新年度にかけて、引き続き、生徒が考える安房高校像を実現していくための具体的な行動や、学校への提言等について審議し、令和5年度生徒総会等にて、議論していく予定である。

Ⅲ マニュアル編

議論を年間指導計画に位置づける

生徒指導規程等について生徒を中心とした議論を行う際の、年間指導計画の例を整理する。特に議案公募・項目整理・議案作成・代議委員会・生徒総会における質問、質問事項としてあがった生徒指導規程について見直し等を検討する委員会（ここでは「生徒指導規程検討委員会（以下「検討委員会」と記載する）までの流れについて整理する。なお、検討委員会における議論の進め方については「7 生徒指導規程検討委員会（p 34～41）」に記載する。

◆ 年間指導計画の例（記載ページ）

時期	実施事項	
～3月	1 議案公募（p 26）	
	実施事項	生徒指導規程等についての議案公募
	方 法	バズセッション方式または選択方式 Forms の活用例参照
3月 中旬	2 項目整理（p 27～29）	
	実施事項	公募意見を整理し、質問項目化
	方 法	Forms の活用（選択肢） ワードクラウド活用例参照
3月 下旬	3 議案作成（p 30）	
	実施事項	質問文の承認 質問者の確定
	方 法	質問文例参照
3月 下旬	4 代議委員会（p 31）	
	実施事項	質問文承認 質問者決定
	方 法	代議委員会進行例参照
	5 事前通達（p 32）	
	実施事項	質問項目を職員関係分掌に割振り
	方 法	回答文例参照
4月 下旬～	6 生徒総会（p 33）	
	実施事項	各校規程による
	方 法	質問文及び回答文の確認
6月～	7 生徒指導規程検討委員会（p 34～41）	
	実施事項	質問項目にあった生徒指導規程についての検討
	方 法	対話方式

1 議案公募

(1) 実施事項

生徒総会にて質問する生徒指導規程等について公募する。

(2) 方法

(ア) Microsoft Forms の活用

Microsoft Forms を活用する。公募の形式については以下の例が考えられる。

(イ) 形式例① バズセッション方式

特に制約を設けず、自由に意見を出させる。Microsoft Forms の記述機能を活用する。多様な意見を収集できる反面、記述の整理が必要になる。

(ウ) 形式例② 選択肢分岐方式

選択肢から選択肢へと分岐を設ける。回答・集計等が容易である反面、質問項目が多くなることが考えられる。

◆ Form による議案公募例① バズセッション方式

令和○年度○月○日に実施する生徒総会に向けて、生徒指導規程に関する先生方への質問事項を募集します。

下記のフォームに、質問事項として取り上げたいことについて記述してください。
(自由記述)

◆ Form による議案公募例② 選択肢分岐方式

令和○年度○月○日に実施する生徒総会に向けて、生徒指導規程に関する先生方への質問事項を募集します。

下記のフォームに、質問事項として取り上げたいことを選択して回答してください。

1 大項目

- ①施設利用に関すること (例 教室、部室、体育館等)
- ②服装・頭髪に関すること
- ③スマートフォンの利用条件に関すること

分岐を設定する

2 中項目 ①と回答した人について、どの施設のことですか

- ①教室 ②部室 ③体育館

3 小項目 どのようなことを取り上げてほしいですか、記述してください。

(自由記述)

2 項目整理

(1) 実施事項

公募意見を整理し、議案として扱う項目を決定する。

(2) 方法

生徒から寄せられた多様な意見から取捨選択を行う基準として、以下のもの等が考えられる。

(ア) 学校教育目標やスクールポリシー等

学校経営に係るものとして明文化され、公開されているこれらの文書は、生徒指導規程に係る議論を通じてどのような学校を目指していくのかという具体的像としての公開性が高く、項目整理の基本的な根拠となる。

(イ) 法令、条例、社会通念等との関連

国の法令や地方自治体の条例といった、法的拘束力を持つ、明文化された規定だけでなく、道徳、常識、マナーといった、明文化はされていないが、社会で一般的に尊重される考え方も、公共性という観点から項目整理の根拠となる。

特に後者については、生徒や地域の現状に応じて、どのような考え方を参照すべきかについて、他の項目との関連の中で吟味し、必要に応じて第三者からの評価や指導助言を求める。

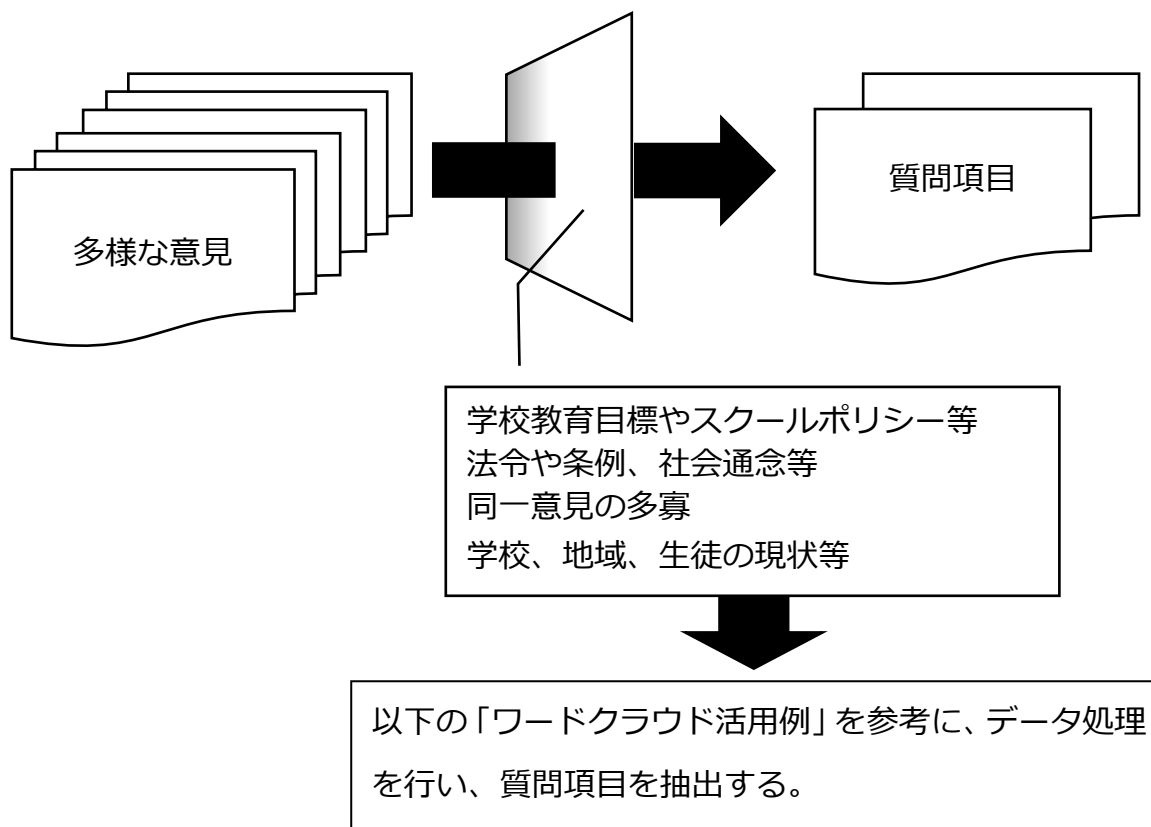
(ウ) 同一意見の多寡

生徒から公募した意見のうち、特に多くの意見が寄せられたものについて、学校は一定の課題意識を持つ必要がある。Microsoft Forms は、回収した記述回答において使用頻度の多い単語を整理して図示するワードクラウド機能を備えている。この機能を活用し、より生徒が関心を持っている事項を抽出する。ただし、Microsoft Forms は、設定によっては、自校生徒以外の者による回答や、同一人物による複数回答を妨げないので、運用については留意されたい。

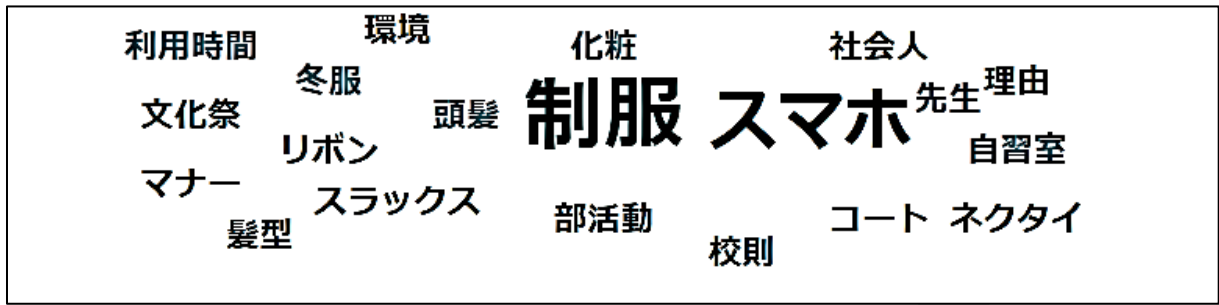
(エ) 学校、地域、生徒の現状

学校における指導の実態や経緯、地域の課題や要望、生徒の現状等について、学校評価アンケート、中学校訪問等における聞き込みの報告、学校評議会や開かれた学校委員会等の議事録、生徒対象の生活実態調査や制度指導の実績といった、学校や地域や生徒の現状を示す資料に基づき、質問事項を精査する。ただし、生徒に直接開示できない内容を含む場合は、資料の取り扱いに十分注意する。

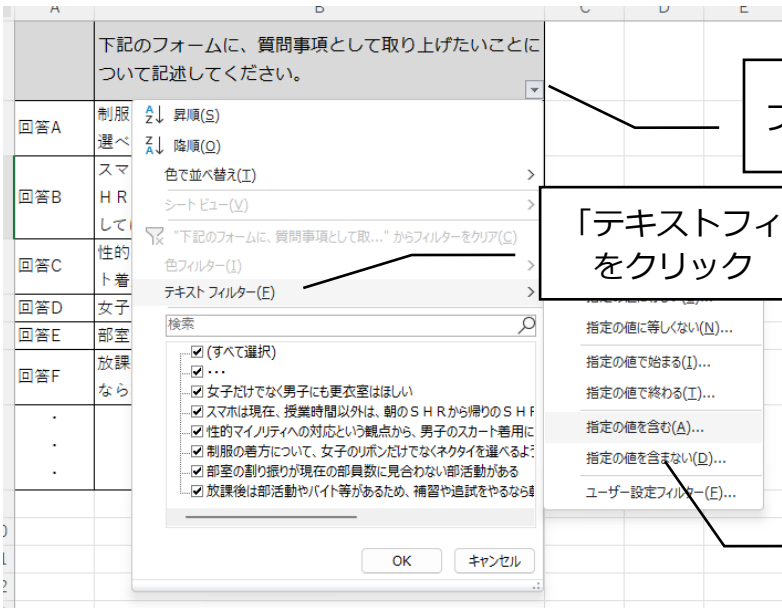
◆ 意見の精査



◆ ワードクラウド活用例



記述をエクセルの様式でダウンロード



フィルターを設定する

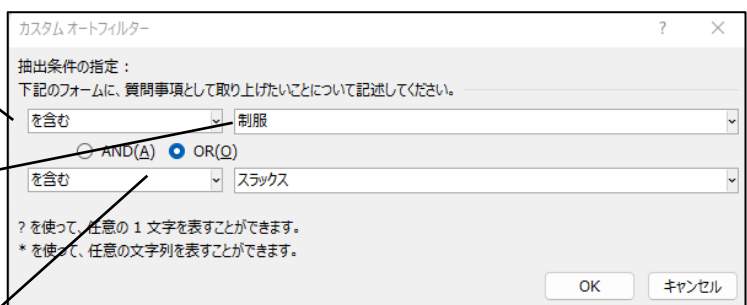
「テキストフィルター」をクリック

「指定の値を含む」をクリック

「含む」をクリック

ワードクラウドから単語を引用

AND 上段 かつ 下段
OR 上段 または 下段



「制服」「スラックス」を含む記述をエクセルデータで確認し、どのような意見、要望があるか確認

3 議案作成

(1) 実施事項

質問文の本文を作成する。

(2) 方法

構成がわかりやすく統一され、質問の趣旨が生徒や職員に伝わりやすいということが、充実した議論の展開につながる。以下に、質問文の構成例を挙げる。

(ア) 現状分析

生徒指導規程の記述や指導の実態について説明する。

(イ) 課題

生徒指導規程や実際の指導における、生徒の疑問点や課題意識について説明する。必要に応じて、学校教育目標やスクールポリシー、法令や条例、社会通念、同一意見の多寡、学校、地域、生徒の現状等に触れることで、当該事案が課題となる根拠とする。

(ウ) 質問

生徒指導規程や指導の実態について、合理的理由や根拠を求める質問とする。

(エ) 要望

学校教育目標やスクールポリシー、法令や条例、社会通念、同一意見の多寡、学校、地域、生徒の現状等に即した要望としてまとめる。

◆ 質問文例

女子用制服におけるスラックスについて伺います。

現在、我が校における女子用制服について、生徒指導規程では・・・と定められています。

これに対して、
学校教育目標では・・・

●人の生徒が、この規程について・・・と意見をだしています。
自身の性自認に悩みを抱える人は●%といわれ・・・

そこで伺います。女子用制服について・・・と規程されている理由を説明してください。

お答え頂きありがとうございました。

生徒会としては、■■■という学校教育目標実現のため、・・・の規程について、
****と見直すことを要望します。

以上で、質問を終わります。

4 代議委員会

(1) 実施事項

質問文の承認及び質問者を決定する。

(2) 方法

生徒総会の議案について代議委員会にて承認を得たり、必要に応じて質問者を決定したりする過程は、既に多くの学校にて実施されているものと考えられる。ここでは、生徒指導規程を議案とする上で特に留意したい点をあげる。

(ア) 項目選定の理由について共有する

「2 項目整理」にて行った公募意見の整理について、どのような基準でどのような整理を行ったのか説明をする。

(イ) 質問文について承認を得る

「3 議案作成」にて作成した質問文案について、「2 項目整理」の趣旨に適っているか審議し、承認を得る。

(ウ) 質問者を決定する

生徒総会にて、質問者として登壇する生徒を決定する。立候補、原案提示、質問内容による割振りルールを作成等の方法が考えられる。

◆ 代議委員会進行例

質問項目① 女子用制服について

公募意見〇〇〇件のうち、「□□□」という意見が●●件ありました。

性自認に悩みを抱えている人は●%とされ・・・

我が校の教育目標に■■■とあり、この実現のために、****であるべきと考えます。

以上の背景を踏まえ、次のような質問文を提案します。

この質問文について、◇◇◇◇さんに登壇して頂きたいと考えています。

5 事前通達

(1) 実施事項

質問事項を各職員分掌に割り振り、回答の作成を依頼する。質問の割り振りを受けた各分掌は、現行の指導の根拠を示しつつ、必要に応じて今後の対応について予定を盛り込んだ回答案を作成する。

(2) 方法

(ア) 指導根拠

質問のあった指導について、学校教育目標、スクールポリシー、生徒指導規程、各分掌の教育目標、学校、地域、生徒の現状等を根拠に、その指導が行われている理由について説明する。

(イ) 今後の予定

質問のあった指導について、現在または今後、何等かの対応をすべく検討していくのか、または現行の指導に合理的な根拠があると考えられるため、継続していくのか等について説明する。

◆ 回答文例

●●●部 △△△△ です。

生徒の皆さんから〇〇という質問がありましたが、
〇〇については、

- ■ という教育目標の下、・・・・という指導を行っています。
- ■ という学校の実態がある中、・・・・という指導を行っています。
- ■ という経緯を踏まえ、・・・・という方向で、見直しを検討しています。

6 生徒総会

(1) 実施事項

生徒総会については既に多くが年間指導計画および行事計画に位置づけ実施し、各学校の実施要項が確立されているところと考えられるが、特に生徒指導規程について議論する際の注意点として以下の点を挙げる。

(ア) 質問事項と質問者について、予め全校生徒に周知する。

(イ) 代議委員会で審議していない飛込の質問および再質問は受け付けない。

上記2点は、いずれも円滑な議論の進行、不用意な回答の防止、質問公募から生徒総会での質問までの手続きの公正さ担保という点から重視される。逆に、これらを認めてしまうと、ここまでの手続きの公正さが損なわれる恐れがある。なお、このような理由から、上記2点についても、生徒総会の参加規則として予め生徒に周知しておく。

(2) 方法

(ア) 質問文の確認

生徒会本部役員は、質問文が事前に代議委員会で承認を得たものとなっているか確認する。質問者によって意図的に、著しく質問文が改変され、代議委員会で審議した質問趣旨を損ねるような名合は、必要に応じて質問を中断させることも考えられる。

(イ) 回答の確認

生徒会本部役員は、職員による回答を、メモ、録音等の方法で記録にとり、事後、全校生徒に報告する。

個別の案件について検討委員会で議論をする

生徒指導規程等について生徒を中心とした議論を行う際、必要に応じて個別の生徒指導規程について「検討委員会」を設置し、生徒、職員、地域等を含んだ議論を実施する。ここでは、そのような議論を実施する上での具体的な方法についてまとめる。

1 議論の形式

(1) 対話形式

進行役（ファシリテーター）の進行の下、発言役が自由に自己の考えを述べる。必要に応じて記録役を置く。小規模の対話グループでは、対話グループ1つにつき進行役や記録役を設置し、より深い議論や課題の解決策に至ることも考えられる。一方、大規模の対話グループでは、進行役や記録役を各対話グループに設置することは難しいが、グループの組み方次第では、異なる意見を持つもの同士の意見交換を促進することができる。

(2) グループ編成

(ア) クラス単位や特定の代表者からなるグループの場合

進行役、記録役各1名、または進行役1名で実施する。複雑な問題について、より深い議論や相互理解、課題の解決策等に至ろうとする場合や、十分な時間が確保できる場合はこの形式が考えられる。

(イ) より多くの人数でグループを組む方法① ワールドカフェ

対話に参加する人数が多く、各班に進行役や記録役を設置できない場合は、議論の目的を発言役同士の意見交換や、多様な意見の収集にしぼる。全体を5人前後の班に分け、進行役が議題を振り、時間を管理しながら班員を入れ替える。記録は、議論を通じて自分が考えたことや、他者の意見で印象に残ったものについて、オンラインツールを使用して記述させるという形式が考えられる。

(ウ) より多くの人数でグループを組む方法② プラカード

参加者の人数が多い中でも、より異なる意見を持つ者同士の意見交換を促す方法としてプラカードを使用する方法が考えられる。ある主題について進行役が2～4択の選択肢を提示する。発言役は、自分の考えに最も近い選択肢の番号を紙に記入する。進行役は、例えば「3人以上5人以下で、異なる回答の者3名を含むグループ」等の指示を出す。発言役は、紙をプラカードとして掲げながら、条件に合うグループを作る。

2 役割

(1) 進行役（ファシリテーター）

議論を実施する際、進行役（ファシリテーター）を立てる。進行役は、議論の流れを傾聴し、発言の意図や根拠について質問したり、発言同士の類似関係や対立関係を整理したりすることで、発言者同士の相互理解が深まるように手助けを行う。進行役は、恣意的に議論を誘導したり、自分の意見を持ち込んだりするのではなく、議論の中心がそれぞれの発言者となるように注意しなければならない。そのため、進行役は、質問のかたちで議論を進行する。

(ア) 発言の根拠や意図を明確にする質問例

〇〇さんの・・・という発言について、

- 何故そう思いますか。
- 具体的な事例を挙げられますか。
- ■■と理解して、間違い不是吗。（または）と言い直して、間違いですか。
- その考え方に基づく、△△△△という場合は▲▲▲▲ということですか。

(イ) 発言同士の類似関係や対立関係を整理する質問例

〇〇さんの・・・という発言について、

- 先程の●●さんの意見との類似点（または相違点）は・・・という点にありそうですが、いかがですか。
- 先程の●●さんの意見との類似点（または相違点）を、説明してもらえますか。
- 先程の●●さんの意見と〇〇さんの意見は、同様の（または異なる）立場にあるようですが、・・・という場合では、それぞれどのように考えますか。

(2) 記録役

必要に応じて記録役を立てることで、進行役を補佐する。進行役は、必要に応じて記録に言及し、発言役と共有することで、議論の停滞、巡回、脱線等を回避する。記録の方法として考えられるものをいくつか挙げる。

(ア) メモをとる

発言内容のメモをとり、整理や振り返りに活用する。進行役、発言役にとっ

て共有しやすい方法として、付箋にメモをとり、ホワイトボード等に貼付する方法や、Microsoft Formsの記述機能を利用して発言要旨を打ち込んでいく等の方法が考えられる。

(イ) 整理する

必要に応じて、付箋を時系列や発言内容等に合わせて整理することで、議論の流れを可視化することも考えられる。例えば、付箋についてキーワードを中心にマインドマップを構成する方法や、マトリックスを描写して整理する方法が考えられる。また、Microsoft Formsの記述機能を利用している場合は、ワードクラウドが自動で生成される。

進行役による議論の整理が、議論の流れの中でリアルタイムに発言者の相互理解を促していく機能を持つものに対して、記録役の記録に基づいた整理は、議論を俯瞰的に理解することに役立つ。

(3) 発言役

議論の中心となるのは、発言役である。発言者は、下記のルールに従って、自由に発言をすることができる。下記のルールは、議論の場が安全の空間であり、発言役が安心して自分の考えを述べることができるために必要と考えられるものである。発言役の構成や発達段階等に応じて、必要なものを提示する。必要に応じてホワイトボード等に掲示しておく。

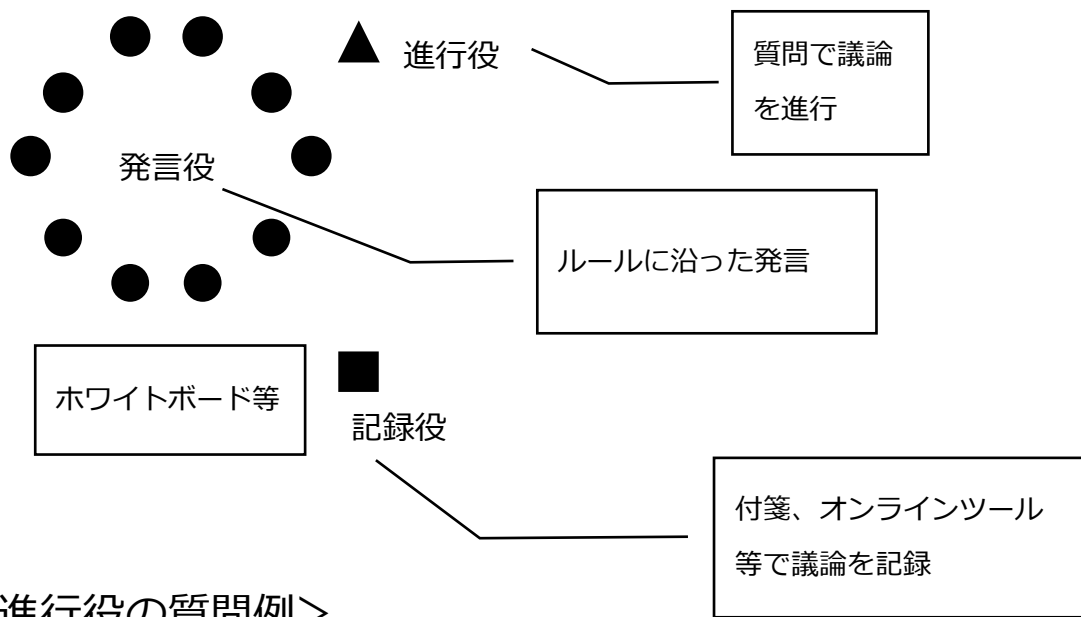
(ア) 1度に話すのは1名まで。他者の話を遮らない。

(イ) 年齢や立場の違いを、発言に反映しない。

(ウ) 発言を強要しない。

(エ) 他者の発言やその意図を尊重する。

◆ クラス単位や特定の代表者からなるグループの進行例



<進行役の質問例>

〇〇さんの・・・という発言について、

- 何故そう思いますか。
- 具体的な事例を挙げられますか。
- ■■と理解して、間違い不是吗。(または)と言い直して、間違いですか。
- その考え方に基づくと、△△△△という場合は▲▲▲▲ということですか。(または) どうでしょうか。

〇〇さんの・・・という発言について、

- 先程の●●さんの意見との類似点(または相違点)は・・・という点にありそうですが、いかがですか。
- 先程の●●さんの意見との類似点(または相違点)を、説明してもらえますか。
- 先程の●●さんの意見と〇〇さんの意見は、同様の(または異なる)立場にあるようですが、・・・という場合には、それぞれどのように考えますか。

(4) クラス単位や特定の代表者からなるグループの進行例

時間 (分)	活動	備考
導入 (5)	<p><目的説明></p> <p>○今回の議論では「●●●●」ということについて、自分の考えを深めることと、他者の考えを知ることです。</p>	
議論 (40)	<p><導入の発問例></p> <p>○アンケートでは、■●高校の生徒は●●について▲▲という意識をもっているようですが、これについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと比べて、どうでしたか。 ・■●高校らしいと思った点、以外だった点はどのようなところですか。 ・自分自身にとって、このアンケート結果は、どのような意味がありますか。 	
	<p><通常の展開内での発問例></p> <p>○■●さんの意見を●●と理解して、間違いないですか。</p> <p>○■●さんの考えは、●●について、▲▲と捉える立場と理解して間違いないですか。</p> <p>○■●さんの立場では、●●については、どのようにお考えですか。</p>	<p>○発言者の意図が明確になったり、議論参加者全体に理解させたりするような問いで介入する。</p>
	<p><停滞した場合の発問例></p> <p>○アンケートでは、■●高校の生徒は●●について▲▲という意識をもっているようですが、これについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・納得していない部分、もっとこうあって欲しかったという部分がありますか。 ・逆に、◆◆という考え方もあると考えられま 	<p>○意図的に対立軸を演出することで、表面的な意見の一致から踏み込んだ本質的な議論に繋がるような発言を促す。</p>

<p>すが、いかがですか。</p> <p>○■■■さんと◆◆さんの立場は一見、近いようですが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場について、どのように理解しているか説明してください。 ・●●という点では一致していないように思われますいかがですか。 ・現実の事例として●●という事態について、それぞれどのように考えますか。 	
<p><複数の立場が対立している場合の発問例></p> <p>○▲▲さんと◆◆さんの立場は一見、対立していますが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場について、どのように理解しているか説明してください。 ・●●ということを目指している点では類似点があるように思われますが、いかがでしょうか。 ・現実の事例として●●という事態について、それぞれどのように考えますか。 ・■■■さんの立場からはそれぞれどう評価できますか。 	<p>○対立軸内での共通点や、第三者の見方・考え方を導入することで、単純な二項対立ではなく、内部に潜む多様な意図に気づかせる。</p>
<p><議論が本筋から逸れた場合の発問例></p> <p>○色々な発言がありましたが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の議論のテーマに引きつけると、どのようにまとめられますか。 ・ここまでの流れを●●とまとめて、改めて▲ 	<p>○発言自体は生かしつつ、逸れた発言を本筋で回収できるような筋道を残すために、完結にまとめておく。</p>

	▲に立ち返ったときに、新しい知見が得られるでしょうか。	
まとめ (5)	○二次元コードでアクセスして、今回の感想を記入してください。	